

**サポーター会費**は、海の多様な機能や大切さを体感できるイベントなどの**啓発活動に活用**しています。

**ミニ砂浜をつくろう会**

浜辺の小さなスペースに海砂を投入し、新しい砂浜を造ったり、痩せた海浜を復元させるユニークな活動です。よみがえった砂浜には多様な生物が棲み着いています。また、松の植栽も行っています。



**施設見学会**



大阪湾環境再生や漁業活動に関し、先進的な取り組みを行う施設や場所について見学します。昨年度は近畿大学水産研究所白浜実験場を訪問し、研究者の方からマグロの養殖等についてご説明をいただきました。

**「アドプト・シーサイド・堺浜」清掃活動**



堺浜は大和川河口部に位置し、川から大量のゴミが漂着します。CIFER・コアは平成25年に大阪府港湾局が推進しているアドプト活動の団体認定を受け、毎年清掃活動を展開しています。

**講演会・シンポジウム**

海域環境の保全・再生をテーマとした講演会やシンポジウムの主催や協力などを行っています。毎年「CIFER・コア講演会」には、多くの関係者のご参加をいただいています。



**国際人材育成事業**

堺市、大阪府立大学とともにベトナム・クアンニン省との交流事業を行っています。例年、ハロン湾での水質改善の取り組み等を視察するとともに、ベトナムからの訪問団が日本の省エネルギーや廃棄物処理等について研修を行います。

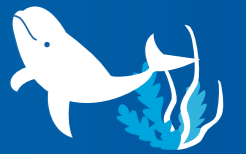


**海に親しむ 夏休みの親子環境学習**

夏休みには、小学生以下の子どもと保護者を対象として、海に親しむイベントを開催しています。地引網や漁船での漁業体験、カヌー体験、自然観察会等の体験型学習会を企画し、毎年多くの親子連れが参加しています。

【その他】 大阪湾生き物一斉調査（国土交通省主催）、大阪湾フォーラム等にも参加しています。

**CIFER・コアの会員企業及びサポーターの皆様へ**

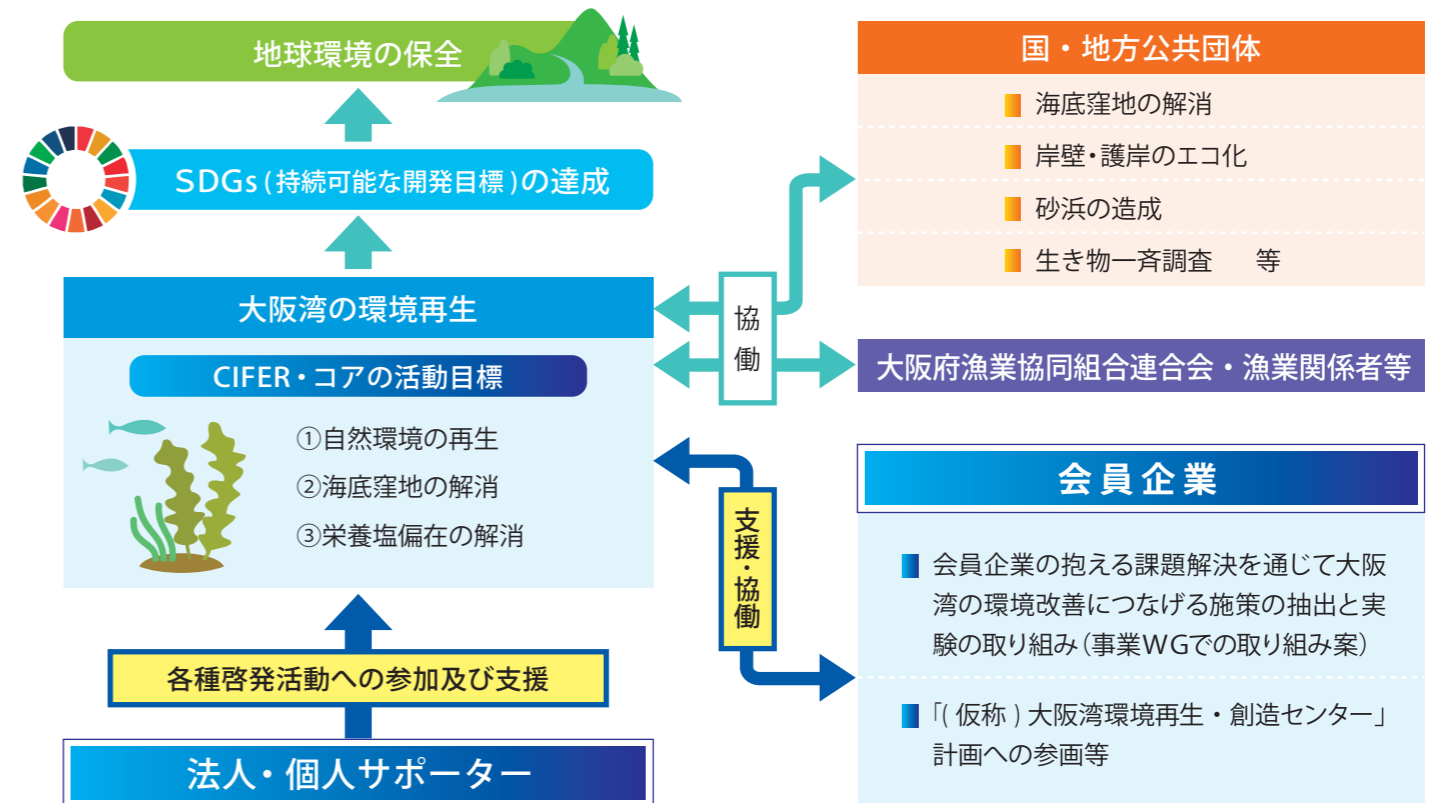


CIFER・コアの大阪湾環境再生への活動は会員企業やサポーターの会費で支えられています。

CIFER・コアでは、平成24年の法人発足以来、大阪湾の環境再生に関する様々な課題に取り組んでまいりましたが、この活動はひとえに会員企業及びサポーターの皆様からのバックアップに支えられてきました。

令和元年度末から現在まで、全世界に蔓延するコロナウイルスの影響で会員企業及びサポーターの皆様も未曾有の危難に見舞われておられると思われませんが、引き続きCIFER・コアへのご理解とご支援の程、お願い申し上げます。

**大阪湾の環境再生を目指すCIFER・コアの活動と役割**



**CIFER・コアの主な役割**

- ① 大阪湾環境再生の理念の構築（大阪湾環境再生100年計画等）
- ② 産官学民の力を結集するコーディネーター役（現地実験等においては漁業者や港湾管理者、海上保安署等との調整）
- ③ 海底窪地の解消や砂浜造成のための安全で安価な資材の発掘
- ④ 会員企業と協力して事業WGによる環境再生メニューの実験
- ⑤ 海の大切さを学習する啓発活動

**CIFER 広島サイト**

CIFER 広島サイトでは、広島県大崎上島町からの委託を受けて、漁港・漁場の整備推進を検討しています。



**<各イベントの累計参加人数>**

- ・ミニ砂浜をつくろう会 672名 (H26年～6回開催)
- ・「アドプト・シーサイド・堺浜」 323名 (H26年～6回開催)

- ・親子環境学習 198名 (H28年～3回開催)
- ・施設見学会 240名 (H25年～6回開催)
- ・CIFER・コア主催の講演会等 868名 (H25年～10回開催)

発行

一般社団法人 大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア（CIFER・コア）  
〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町130番地42 さかい新事業創造センター内  
URL: <http://cifer-core.jp> E-mail: [cifer-bureau@cifer-core.jp](mailto:cifer-bureau@cifer-core.jp) TEL: 072-267-4880 (平日10:30～15:30) FAX: 072-267-4893





# 事業WG活動

CIFER・コア会員企業の提案・協力に基づき、10の事業WG(ワーキンググループ)を設置し、必要に応じて学識経験者の意見を聞きながら検討を進めています。実験に際しての国土交通省・海上保安署・大阪府港湾局・漁業関係者・学識経験者等との調整はCIFER・コアで行っています。



堺2区北泊地周辺海域



水質浄化プラント(H25~H30年度)



ミニエコブロック



コンクリート製エコパネル

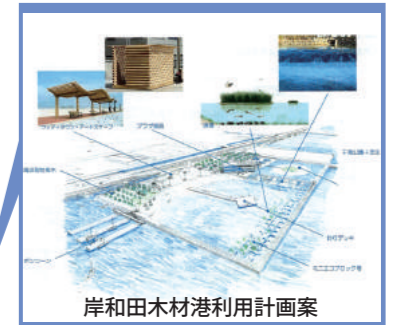


センター構想周辺写真

WG	テーマ	検討内容	達成状況と今後の課題
1	北泊地環境改善	周辺地域で発生する港湾・河川の浚渫土による堺2区北泊地の浅場化方策の検討を行うとともに、泊地に接する企業用地の護岸において老朽化した構造物の補強を目指しつつ、護岸のエコ化について関係機関、学識者等による検討を行う。	大和川の河川計画の見直しや維持浚渫土の発生状況を見ながら河川管理者等と一層の調整を行う。企業の護岸補強については、港湾局や堺市等を含めた研究会を開催し、その方策を探る。
2	スラグ再生材の活用	鉄鋼スラグと浚渫土を混合すると固化することを活用し、海域環境の修復に資する深掘り窪地の埋め戻しや、浅場・干潟・養殖場等の造成用材としての活用について検討を行う。	近年、カルシウム改質材の活用が全国的に推進されていることから、窪地の埋め戻しや護岸補強に利用すべく国土交通省や大阪府に働きかける。
3	水質浄化方策	堺浜人工海浜の直背後護岸に水質浄化プラントを設置し、海水の浄化方策の検討を行ってきた。その結果を活用し、堺市が令和元年度から親水施設の整備に向けた取り組みに着手し、CIFER・コアとともに会員企業も協力している。また、他の会員企業2社はタイドプールを利用し、廃材破砕物の海砂等への利用に向けて実験中。	堺市の内海ポンド等の親水施設については、CIFER・コアも協力して事業の推進を図る。 ガラス瓶や罫子等の破砕物についてはその一部に水産資源の育成に効果が見られることから、その活用を目指す。
4	遊休水面の活用	木材港の既存遊休水面の環境再生を軸にした活用方策について、コンビナート協会、漁業関係者、自治体等に検討を働きかけている。	木材港の貯木場跡は80haもの広大な水面を有することからこれを活用することで地域の活性化につながる。水産業での利用や干潟公園等、海辺の再生の可能性を探る。
5	ミニエコブロックの設置	大阪府港湾局と住友金属工業株式会社(現日本製鉄株式会社)で開発、特許取得したエコブロックの考え方にに基づき、小型化・低コスト化と機能充実のため、大阪府都市整備推進センター等の協力を得て令和元年度にミニエコブロックを4基製作した。令和2年度には、阪南2区の北側緑地予定地水面に設置して、魚類の蝸集効果等を数年間にわたり調査する。	効果が確認できれば、今後の護岸等の整備や補修工事の際にエコブロックの設置を推進する。
6	石炭灰再生材の活用	岸和田貯木場で火力発電所から副産される石炭灰を固化・加工したアッシュクリート(AC)の海域環境改善効果の確認を行ったところ、高水温期には硫化物・リンを吸着し、水温低下期には生物付着等の効果が認められた。AC由来の重金属溶出は確認されなかった。	二色浜のカキ養成実験の際にAC同様の製品(Hiビーズ)にも底質の改善に効果があることが分かった。底質改質材として活用を図っていく。
7	水中構造物のエコ化	新たに構築される護岸・橋脚、また、既存護岸等の簡易なエコ化方策として、令和元年度に大阪湾フェニックスセンターの協力を得てコンクリート製エコパネルを3基製作し、フェニックス泉大津沖埋立処分場の護岸に設置した。今後、生物蝸集効果を数年間調査する。	かつて設置した鋼製エコパネルと比べ、カニ等の生物蝸集効果を確認する。
8	二枚貝養成実験	水質浄化などを目的に、二枚貝(カキ)による栄養塩の回収実験を平成27年度から阪南6区内水面で実施してきたところ、カキが十分に成長し、N、P等が回収された。令和2年度からは規模を拡大して実験を継続する予定。	日生などの他海域と比較して成長が早く、味も良いことから大阪産の海産物としての販売を目指す。大阪府の水産課とも調整を進める。
9	建設系副産物等の活用	建設廃棄物、鉄鋼スラグ、石炭灰、ガラス破砕材、クラッシャーラン等の建設系副産物等による窪地解消などの海域環境改善を目指し、フェニックス泉大津沖埋立処分場において「(仮称)大阪湾環境再生・創造センター」設立に向けた取り組みを進める。	昨年度末に実施したアンケート調査に基づき、計画の推進を図る。国土交通省や大阪府・大阪府漁連等の協力を要請中。
10	アマモ養成実験	海の生物のゆりかごといわれるアマモ生育場を増やすため、令和元年度から阪南6区内水面において、コンテナでアマモを発芽、成長させる実験に取り組んでいる。アマモには貝毒増殖を阻害する細菌が付着しており、貝毒対策としても期待されている。	昨年度の水温が高かったため、予定の結果を得ることができなかったが、今年度も引き続き実験を続ける予定。



カルシウム改質土実験場所



岸和田木材港利用計画案



阪南6区南側水面の現況



マガキ養成実験



アマモ養成実験

海域での新しい実験を模索されている会員企業の皆様からのご提案をお待ちしております。